

質問（20 条関連）

P385 基礎の圧縮ストラットの A_s 算出の係数が 0.8 とされていますが参考文献によれば 0.9 とした場合も概ね 1.00 を超えております。

P384 の計算例は偏心が 400 と大きく、傾斜角も 76° 程度ですが、偏心が 100~150 で傾斜角 85° 以上の場合にも 0.8 を採用するのは不合理と考えます。例えば傾斜角 85° 以上なら 0.9、 85° 未満なら 0.8 等の見解を示してはいただけませんか。

こちらの計算例が明示されていると、適合性判定等では 0.8 で計算するほか無いという判断になりがちです。

設計者としてフレキシブルな対応ができるようにしていただきたいと思います。

（匿名希望）

回答

傾斜角 θ が大きくなれば（つまり、ストラットの角度が立てば）ストラット断面積 A_s は柱断面積 A_c に近づくと考えられますが、実験では、（特にストラットの角度が立っている場合について）傾斜角と実験値／計算値の関係について詳細に検討していないため、ここでは安全側の値をとって $A_s = 0.8A_c$ としました。ただし、一律に 0.8 倍を推奨しているわけではなく、設計者が実情に応じて適切に判断する必要があります。